

わかやま 和歌山を創る新聞 かつく

Vol.98
2014.10.03

すべての勤労者の笑顔のために
近畿ろうきん 社会貢献プロジェクト すまいる

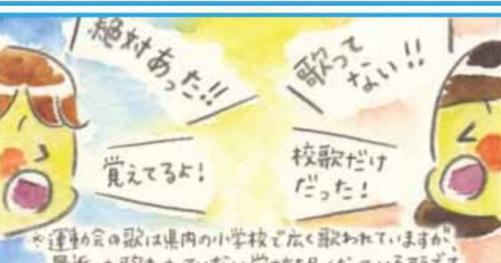
新宮市の熊野古道で団体初の「道普請」ボランティア活動を実施します。

11月15日(土) 11:00～15:00

川の熊野古道・熊野川(新宮市熊野川町田長)

河川敷の清掃などに取り組みます。JR 和歌山駅東口から送迎バス運行あり。

詳しくは <http://www.wnc.jp/smile/> へ。



地元力財団

あなたの「ほっとけない」が見つかる これからの社会貢献 100

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょう。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ(分野)を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

何が課題? 数字でみる和歌山県 Theme6 子育て—学力テストと子どもの生活環境

塾に通っていてもテストはダメ?
子どもたちの学習環境に関して、学力テストと同時に進められたアンケートから、このようなデータも公開されています。
和歌山県の小学生の通塾率は全国4位で56%、中学生の通塾率は全国3位で74.1%です。小学生の2人に1人、中学生の4人に3人が塾に通っている計算です。しかし、一方で全国学力テストでの小学生の正答率が全国1位だった秋田県では、通塾率は47都道府県中最低位となっています。つまり、学力テストの正答率と通塾率は相関性をもっておらず、塾に通っているからといって学力テストの結果がいい、というわけではなさそうです。
家庭での生活が影響している?
平日に学校以外で学

子どもたちの学習環境
このように、和歌山県に住む子どもたちが他府県の子どもたちと比較して勉強そのものをしていないというわけではありません。しかし、学力テスト全国1位の秋田県と比較すれば、子どもの生活環境は大きく異なることがわかります。
子どもたちに何が必要?
今回の学力テストとアンケートから見えてきた課題としては、子どもたちが家庭で勉強や読書をして過ごす時間を長くすること、そして規則正しい生活ができるようにすること、ということになります。

ショック!! 全国学力テスト
今年8月に公表された「全国学力テスト」の結果によれば、和歌山県内に住む小中学生の正答率は、47都道府県の中で小学生が45位、中学生が42位といずれも全国下位でした。こうした結果には子どもたちを取り巻く環境に課題があると考えられます。
塾に通っていてもテストはダメ?
子どもたちの学習環境に関して、学力テストと同時に進められたアンケートから、このようなデータも公開されています。
和歌山県の小学生の通塾率は全国4位で56%、中学生の通塾率は全国3位で74.1%です。小学生の2人に1人、中学生の4人に3人が塾に通っている計算です。しかし、一方で全国学力テストでの小学生の正答率が全国1位だった秋田県では、通塾率は47都道府県中最低位となっています。つまり、学力テストの正答率と通塾率は相関性をもっておらず、塾に通っているからといって学力テストの結果がいい、というわけではなさそうです。

和歌山県 (学力テスト 45位)	
43位	学校以外での学習
4位	通塾率
47位	朝食摂取率
46位	読書率
37位	早寝早起き率
6位	家庭用ゲームプレイ時間

秋田県 (学力テスト 1位)	
4位	学校以外での学習
47位	通塾率
2位	朝食摂取率
12位	読書率
6位	早寝早起き率
37位	家庭用ゲームプレイ時間

では、子どもたちの生活環境を良くしていくために私たちに何ができるのでしょうか。その答えのひとつは、子育ては親だけの責任ではなく、地域社会に住むすべての大人の責任だということ意識を持つことだといえます。しかしながら具体的に少子化も相まって地域のなかで子どもに接する機会も少なく、何をすれば良いのか分からないという方がほとんどではないかと思われる。地元力財団では「わかやま子ども未来基金」を設置しています。この基金では、和歌山県内で、子どもたちや子育てなどに悩む親御さんたちとつながり、継続的にサポートして続けている団体を応援しており、子どもたちの生活環境がより良くなる地域づくりを目指しています。

Editor's Voice

地元力財団では「地元に対する想いを寄付に託す」という新しい寄付の「カタチ」を提案しています。寄付はもちろん、明日からできる「あなたらしい」社会貢献のカタチを紙面で紹介してきました。当財団では「社会貢献支援相談窓口」を開設し、個人や団体、企業のみならずの地元に対する想いをカタチにしていくお手伝いをしたいと考えています。

また、昨今の社会貢献意識の高まりを受け、遺産を地元のために活かしてほしいという声やニーズはますます高まってきています。地元の課題が多種多様になるなか、それらの声に応える新しい仕組みが求められています。

公益財団法人わかやま地元力応援基金では、「遺産を地元のために提供したい、寄付したい、活用してほしい」という想いと、大切な遺産を地元の市民公益活動団体へとつなぎ、活用していくための相談を受け付けています。

■お問い合わせ先
公益財団法人わかやま地元力応援基金「これからの社会貢献 100」係 (担当: 酒井)
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-428-0011 FAX 073-428-0012
E-mail info@jimotofund.jp

Case Study 統計上からみる「子どもを取り巻く課題」

今回から2回にわたって「子どもを取り巻く課題」がテーマ。様々な統計データを調べてみますと、子ども世代を取り巻く様々な課題が見えてきます。

特集記事にもありますが、全国学力テスト小学校6年生の国語Aの平均点が全国最下位だった、ということが大きなニュースとして取り上げられたのは記憶に新しいところだと思えます。さっそく学力向上に向けた取り組みが検討され始めています。

この学力テストの実施時には生活習慣などを聞くアンケートも同時に行われています。この結果も一部、特集記事で取り上げていますので改めて取り上げることはしませんが、結果として生活習慣として考えられる指標の割合が全国的に見ると低めになっています。

すべてをただちに生活習慣の問題に結びつけるのは短絡的かもしれませんが、学力テストの成績がよかった県では和歌山県が全国平均より低い指標は総じて高い傾向にあるようで、やはり一定の相関関係がある、と見るのが妥当なかも知れません。

家庭の問題に目を向けると、和歌山県の離婚率は全国6位の水準(人口動態調査より)で、

ひよっとするとひとり親家庭が多いという事情がなんらかの影響を及ぼしている可能性も考えられます。ひとり親家庭の強い味方ともいえる小学生の放課後の生活を保障する「学童保育」の設置率は10年前に比べると倍にはなりましたがそれでも69.9%(全国学童保育連絡協議会調べ)で全国45位と下位のままとされており、ひとり親家庭対策が十分であったとはいえず状況がみられます。

こうした多くの課題を解決するにはどれかひとつを解決すればいい、というのではなさそうです。例えば学力向上に気をつかいつつあまりにほかの部分の成長がおろそかになることは避けねばなりません。そのためには多くの担い手が連携し、複合的に取り組むことが求められそうです。

県教委は教育現場に地域の住民やNPO・企業などと連携してともに子どもの教育につなげる「共育コミュニティ」などの仕組みを有しています。既存の仕組みを活かしながら、地域のみなさんが子どもが抱える課題解決に関われるよう、行政だけではなく、学校だけではなく、様々な機関が連携・協力する体制づくりが必要かも知れませんね。

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

●あーとの教室
福祉・医療・ファッション関係者が団体を結成、障がいのある方のアート活動を支援。
日時 毎月第1・第3日曜日 13:00～15:00
場所 御坊・日高障害者総合相談センター多目的ホール
内容 (1) あーとを楽しむコース(第1日曜) …初心者向け。本人が興味のあるアートを楽しみます。(2) クリエイター育成コース(第1・3日曜) …アート作品を様々な商品に活かすための取り組みをおこないます。
参加費 (1) 月300円、(2) 月500円(飲み物・お菓子つき)、事前申込みが必要です。
問い合わせ・申込み ワークス・アールブリュット推進協議会(wawawart@gmail.com)
備考 保護者またはヘルパー同伴での参加もOK。

●マルシェドブティバVol.6
手作り雑貨や軽食などのブースが並びます。
日程 10月12日(日) 10:50～16:00
場所 北ぶらくり丁商店街
問い合わせ マルシェドブティバ実行委員会(073-435-0560)

●赤い花・白い花、それから
昨夏「アヴィニオン演劇祭」にて上演、地元紙から高い評価を受けた「赤い花・白い花」の国内巡回公演です。
日時 10月12日(日) 17:00～
場所 和歌の浦アートキューブ 入場料 前売り 一般2,000円、学生1,500円、子ども1,000円。当日一般は2,500円。
問い合わせ NPO法人和歌山芸術文化支援協会(073-454-5858)

●和歌山社会経済研究所・平成26年度講演会
1981年の設立当初より続く恒例の講演会です。
日時 10月20日(月) 13:00～14:30
場所 ホテルグランヴィア和歌山6F「ル・グラン」
テーマ 地域と祖国の希望はどこにあるか
講師 青山繁晴さん(株式会社独立総合研究所代表取締役社長兼首席研究員)
参加費 無料(事前申込み必要)
問い合わせ・申込み 一般財団法人和歌山社会経済研究所(Tel 073-432-1444・FAX 073-424-5350)

このほかの情報もたくさん掲載!
「わかやまイベントボード」URL
PC版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/>
携帯電話版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/m/>